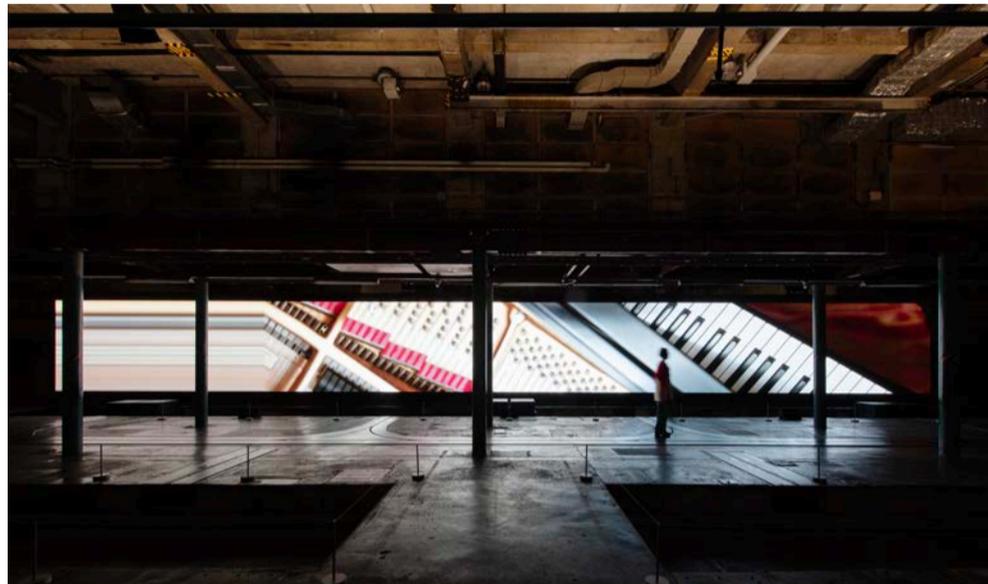




AMBIENT KYOTO 2023 作品 & アーティスト 概要

[京都新聞ビル地下1階] 坂本龍一 + 高谷史郎 | async - immersion 2023

坂本龍一が2017年に発表したスタジオ・アルバム『async』をベースに制作された高谷史郎とのコラボレーション作品の最新版。京都新聞ビル地下の広大な空間を使い展開するサイトスペシフィックなインスタレーション。



《async - immersion 2023》 photo : Satoshi Nagare



アルバム『async』（2017年）

音響ディレクション：ZAK

映像プログラミング：古館 健

サウンド・プログラミング：濱 哲史

音響：東 岳志、山本哲哉、渡邊武生、細井美裕

照明ディレクション/デザイン：高田政義（RYU inc.）

美術造作：土井 亘（dot architects）

展示設営：尾崎 聡

グラフィック・デザイン：南 琢也

プロデューサー：竹下弘基（TOW）、中村周市（Traffic）

プロジェクト・マネージャー：關 秀哉（RYU inc.）

企画協力：Kab Inc./KAB America Inc./Dumb Type Office Ltd.

アーティストコメント

高谷史郎

坂本龍一さんが、2017年の発表当時、「あまりに好きすぎて、誰にも聴かせたくない」と表現した『async』。アルバムのアートワークを依頼していただいたのを機に、ニューヨークの坂本さんのスタジオを訪ねて撮影、その後、5.1chサラウンドのBlu-ray版「async - surround」を発売することになり映像を制作、ワタリウムでの「坂本龍一 | 設置音楽展」ではインスタレーション《async - drowning》を制作、ニューヨークのアーモリーでのコンサート「RYUICHI SAKAMOTO: async AT THE PARK AVENUE ARMORY」の映像担当…と、これまで様々なかたちで関わらせてもらってきました。もともとこのアルバムを制作された時に坂本さんの中には「設置音楽」という、「音」をインスタレーション作品としてマルチトラックで聴いてもらいたいという考え方がありました。今回、京都新聞ビル地下の広大な空間に合わせて、インスタレーション《async - immersion 2023》を制作するにあたって、坂本さんの理想とする環境を目標に、ZAKさんのディレクションのもと音をマルチトラックで再構築し、立体的な音響空間で体験できる作品になっています。映像は、坂本さんのスタジオの機材やピアノ、庭、空・雲や水の波紋、アイルランドやモロッコ、東京、ドイツの風景、そして坂本さんが出会った東日本大震災の津波で被災したピアノ。「async」（非同期）のコンセプトに基づいて、一部テキスト部分などを除いて、基本的に映像と音楽は同期していません。鑑賞者は音と映像の関係が絶えず変化する流れの中で作品を体験する、それは、反復するけれど同じことは二度と起こらない、波や雨の波紋を見ている時と同じ体験です。

ZAK

記憶の再生_2023

印刷工場跡の巨大空間がまるで生き物の様に我々を包み込む。微睡の中に浮かぶ映画の様な音楽と音、そしてノイズと過ごしてみてください。永遠に同じ映像は流れないが、止まったような時間の中でも再生は進んでいく。ゆっくりと鑑賞するのがお薦めだが、1日中いられるという強者も出てきそう。広いので一つの所に留まらず好きな場所を見つけて楽しんでほしい。

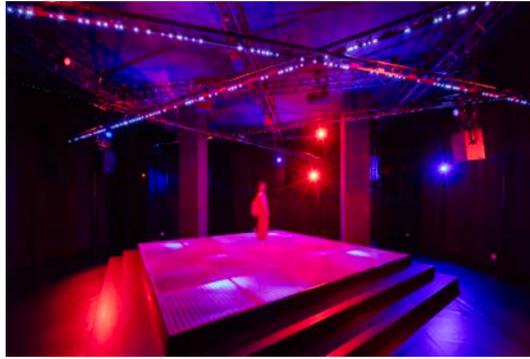
▶スピーカー台数：29台+Sub6台

▶構成：6.6.5.2.1.2ch

スクリーン上と後方上に6台ずつ、その前に5台とサブウーファーが6台、そして後方上に取り付けられた10台のNEUMANNのスピーカーは基本的にステレオ再生だが、曲によってはすべてのスピーカーと連動していて、その上を音が動き廻る。

[京都中央信用金庫 旧厚生センター] **Cornelius** (コーネリアス)

groovisionsによる映像作品や高田政義による照明と、ZAKによる立体音響がシンクロして生み出される視聴覚体験。



《QUANTUM GHOSTS》 photo : Satoshi Nagare

QUANTUM GHOSTS (1F展示室 / 4:24min)

本館で最も大きな展示室で行われる、360度に配置された20台のスピーカーから鳴らされる立体音響と、高田政義による照明がシンクロする作品。音楽は7inchシングル「火花」のカップリング曲。

アーティストコメント コーネリアス

音の波長をどんどん短くしていくと、量子レベルで音と光は絡み合うそうです。この作品は360°に配置された、20個のスピーカーから発生する音波に乗せて耳に与えられる時間的刺激と音の発音とともに明滅する光波を介して目に与えられる、空間的な刺激を同時に体験する作品です。ぜひ中央の台の上に乗ったり、外側から眺めたり、色々な角度から楽しんでください。

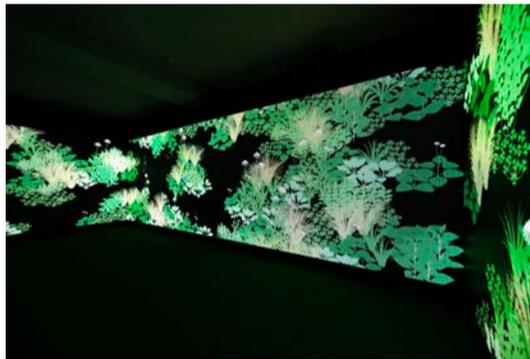
アーティストコメント ZAK

旧厚生センター内の最大の展示で、360°の立体音響フロア
四方八方、床下、頭上に組まれたスピーカーが配置された"5m x 5m"のステージに"観客"自身が立つ事で、音とシンクロする光を直接体験し没入感を味わえます。「時間に応じた規則的な音のパルス」と「縦横無尽に空間を駆け巡るアルペジオ」の組み合わせで、無意識のQUANTUM (音と光)が身体を通過し GOHST (イメージ)を呼び起こす。まずはここから、或いは3Fの霧から始めてみるのもお勧めです。

▶スピーカー台数：24+Sub4台

▶構成：4.4.4.1.4ch

MEYERとADAMSONのPAスピーカーを、東西南北に4台、その間45度に4台、床下に4台、天井に4台、サブウーファー4台



《TOO PURE》 photo : Satoshi Nagare

TOO PURE (2F展示室 / 3:31min)

groovisions制作の映像作品が立体スクリーンに映し出される、7.1chの音と映像の作品。音楽は、最新アルバム『夢中夢 -Dream In Dream-』収録曲。

アーティストコメント コーネリアス

コーネリアスのアルバム、夢中夢に収録された楽曲の Audio / Visual 作品です。人工芝の敷き詰められた地面に座って、リラックスして楽しんでください。

アーティストコメント ZAK

イマーシブな大自然フロア
大きなLEDスクリーンに映し出される映像と7.1chサラウンドミックスが、バーチャルピクニックを楽しむための没入感を提供します。座ったり、寝転んだりしながら、脳内の大自然と繋がるイマーシブな空間を楽しんでください。

▶スピーカー台数：7台+Sub1台

▶構成：7.1ch

NEUMANNのKH150スタジオモニターとサブウーファーKH810の組み合わせ。



《霧中夢 - Dream in the Mist -》 photo : Satoshi Nagare

霧中夢 - Dream in the Mist - (3F展示室 / 7:00min)

特殊演出による霧と、照明、音が相互作用しあう空間。
音楽は、アルバム『夢中夢 -Dream In Dream-』収録曲。

アーティストコメント コーネリアス

コーネリアスのアルバム、夢中夢に収録されている楽曲を、体験型インスタレーションにした作品です。立ち込める霧の中を自由に移動しながら、Psybient / Ambidelic でTrippyな体験を楽しんでください。

アーティストコメント ZAK

”霧-音-光”に包まれた異次元のフロア

3階に位置する「霧」に包まれた部屋で、光と音の幻想的な体験を楽しむことができます。音は霧に広がり、水滴の中にゆっくりと閉じ込められていく。まず、ここでリラックスしてから他の展示を鑑賞するのもおすすめです。山の上から霧を抜けたら異次元へ。

▶スピーカー台数：9台

▶構成: 6.1.2ch

霧の水分があるのでメインは防滴仕様のBOSE AMU206が使われている。
(サブウーファーはNEUMANN KH710)

Loo

展示室以外の会場の空間で、本展のために書き下ろされた新曲をお楽しみいただけます。



アルバム『夢中夢 -Dream In Dream-』 (2023年)

[京都中央信用金庫 旧厚生センター] **Buffalo Daughter** (バッファロー・ドーター) / 山本精一

バッファロー・ドーター、山本精一の作品は、会場3Fの同じ展示室内で展示されます。向かい合わせに設置された、音を透過する特殊スクリーンで斜めに仕切られた空間に、ZAKによって立体音響化された音と、イメージを拡張させる映像インスタレーションが展開します。

Buffalo Daughter



◀ Everything Valley ▶ photo : Satoshi Nagare

Everything Valley (3F展示室/5:58min)

映像はクリエイター 住吉清隆による作品。音楽は、最新アルバム『We Are The Times』に収録されている。

アーティストコメント バッファロー・ドーター

今展覧会用に2画面の対映像を注目の映像作家：住吉清隆が制作。

全てのものが存在する”谷”と何もない”丘”、対照的になっている○と□二つの世界が作る画面が幾何学模様の音の粒となってフロアに放出される。映像と共に音も体も流れたり踊ったりと、浮遊する空間を自由に楽しんでほしい。

Music ever played is still playing ♪ 奏でられた音楽はまだ鳴っている かつて粒子の頃に聴いた音の波となる。



◀ ET (Densha) ▶ photo : Satoshi Nagare

ET (Densha) (3F展示室/6:19min)

映像はベルリン在住の映像／音響アーティスト 黒川良一による作品。音楽は、最新アルバム『We Are The Times』に収録されている。

アーティストコメント バッファロー・ドーター

2020から21年にかけて映像／音響作家の黒川良一がパンデミックによる外出禁止令が出ていたベルリンの自宅にて制作。高解像度でスキャンした花が粒子となり、映像作品と音が拮抗しながら空間に放たれる。巨大なエントロピーにより破壊され無に近づくが、やがて秩序が回復し再構築される。中盤に聞こえる汽笛が電車の折り返し地点、さあどこへ向かうのか。



アルバム『We Are The Times』 (2021年)

山本精一



◀ Silhouette ▶ photo : Satoshi Nagare

Silhouette (3F展示室/14:23min)

映像は、リキッド・ライティングの手法を用いた ビジュアル・アーティスト 仙石彬人と山本精一による共同制作作品。音楽は、本展のために書き下ろされたアンビエントな新曲。

アーティストコメント 山本精一

家(うち)から「外」へ出た瞬間、否応なしに五感へ跳び込んでくる生成変化の表象としてのモアレと明滅。自らもその光陰のパーツと成りながら、ゆるやかに外部へ擬態してゆく様を、可能な限り曖昧なまま聴覚に投影すること。

こだわった部分：各シーンにおける変化のプロセスを、なるたけシームレスに表現するよう心がけた。気がつけば状況展開が過ぎ去っていた、というような。



アルバム『Silhouette』 (2023年)

アーティストコメント ZAK

高解像度なダンスフロア

斜めに向かい合った2つの透過型映像スクリーンに映し出される、音と映像が共存する高解像度のダンスフロア。

真ん中で踊ったり、寝転んだり、座禅を組んだり、好きに楽しむのがお勧めだが、周囲のベンチに座り、俯瞰して空間をぼんやりと眺めるのも良い。3つの異なるタイプの作品が順番に流れ、全体で28分程の最長体験が可能。時間の経過を気にせず、音と光の粒子に包まれた空間をじっくり味わってください。

▶スピーカー台数：16+Sub4台

▶構成：12.1.4ch

天井とスクリーン裏に設置された16台のGENELECのスピーカーと4台のPA用のMEYERのサブウーファー

作品介绍

[朗読] 朝吹真理子

ポッドキャスト配信。デビュー作『流跡』全編の著者自身による朗読をオーディオブックとして楽しめる。

<https://ambientkyoto.com/reading>

作品名：『流跡』

朗読：朝吹真理子

録音：朝吹亮二

録音監督 & Mixing : ZAK

編集: 岩谷啓士郎 & 吉田祐樹



アーティストコメント ZAK

音の中で最もシンプルで複雑で身近なもの『声』に導かれ、知らぬ間に結界を超えていく。

微睡の中で、まるでアナログテープがループするように、ヒスノイズに時間が書き換えられていく、無限の世界へ続くデビュー作『流跡』は、作家自身による朗読で生きる声として表現されています。

この音響作品は日本ではまだ珍しく、小説の文字から声による読書体験への新たなアプローチを提供します。

『流跡』を読み進めると、文字の中に没入し、進むことが難しくなることもありますが、本人自らが朗読することで、文字の背後に潜む音やノイズ、そして見え隠れする風景や意味が新たな次元で浮かび上がります。興味深いことに、本人は執筆時に常に音読を行っているそうです。

アーティスト・プロフィール (1/2)



photo by Neo Sora (C) 2022 Kab Inc.

坂本龍一 (音楽家 / アーティスト)

1952年1月17日、東京生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年、YMOの結成に参加。1983年に散開後は『音楽図鑑』『BEAUTY』『async』『12』などを発表、革新的なサウンドを追求し続けた姿勢は世界的評価を得た。映画音楽では『戦場のメリークリスマス』で英国アカデミー賞作曲賞を、『ラストエンペラー』でアカデミー賞作曲賞、ゴールデングローブ賞最優秀作曲賞、グラミー賞映画・テレビ音楽賞など多数受賞。『LIFE』、『TIME』などの舞台作品や、韓国や中国での大規模インスタレーション展示など、アート界への越境も積極的に行なった。環境や平和問題への言及も多く、森林保全団体「more trees」を創設。また「東北ユースオーケストラ」を設立して被災地の子供たちの音楽活動を支援した。2023年3月28日死去。

<https://www.sitesakamoto.com/>



高谷史郎

1984年、京都市立芸術大学在学中に「ダムタイプ」のメンバーとして活動を始め、様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館、アートセンターで公演や展示を行う。1998年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。近年の主な活動としては、2021年、坂本龍一とのシアターピース『TIME』をオランダ・フェスティバルで世界初演。2022年、ダムタイプは坂本龍一を新メンバーに迎え、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展・日本館で新作《2022》を展示。2023年にアーツゾン美術館（東京）で、ヴェネチア・ビエンナーレ帰国展「ダムタイプ | 2022: remap」展示。2024年春、『TIME』を東京・新国立劇場およびロームシアター京都で上演予定。

<http://shiro.dumbtype.com>



Cornelius (コーネリアス)

小山田圭吾のソロプロジェクト。

1993年、Corneliusとして活動をスタート。

6/28にアルバム『夢中夢 -Dream In Dream-』をリリース。

自身の活動以外にも、国内外多数のアーティストとのコラボレーションやREMIX、インスタレーションやプロデュースなど幅広く活動中。

<http://www.cornelius-sound.com/>



Buffalo Daughter (バッファロー・ドーター)

シュガー吉永 (g, vo, tb-303) 大野由美子 (b, vo, electronics) 山本ムグ (turntable, vo)

1993年結成以来、バンド編成での新しい音楽をアルバムをリリースするごとに提示し続け、2023年結成 30周年を迎えた現在も日本のみならず海外でもライブバンドとして大きな評価を得ている。2021年に8枚目となるアルバム「We Are The Times」をワールドワイドでリリース。

<https://buffalodaughter.com>

アーティスト・プロフィール (2/2)



山本精一

兵庫県生まれ京都在住の音楽家、文筆家、画家。1986年から2001年までBOREDOMS(米ワーナーより発売)に作曲と、ギタリストとして参加。以後、ROVO、羅針盤、想い出波止場、PARA、MOST、TEEM、Ya-to-i、NOVO-TONO、CHAOS JOCKEY他、様々なジャンルにおいてワールドワイドに活動を展開する。特に90年代から2000年代にかけて、海外フェス、ロラパルーザ、グラストンベリーなどに多数出演。また、BOREDOMのメンバーとして、ソニック・ユースやニルヴァーナといった、オルタナティブ・ロックバンドとのツアーも多数行っている。音楽家としての代表作はアンビエント作『Crown Of Fuzzy Groove』(ソロ)、『SOUL DISCHARGE 99』(BOREDOMS)、『ソングライン』(羅針盤)、『水中JOE』(想い出波止場)、『FLAGE』(ROVO)、『幸福のすみか』(山本精一&PHEW)等がある。湯浅政明監督アニメーション『マインド・ゲーム』、三池崇史監督の『殺し屋1』、矢口史靖監督の『アドレナリンドライブ』などのサウンドトラックを手がける。エッセイストとしても「文学界」など様々な媒体に寄稿しており、『徒然草』が2008年の年間ベストエッセイに選出。1999年には妄想エッセイシリーズ『ギンガ』、2009年には『ゆん』、2014年に『イマユラ』を出版。さらに画家、写真家としての活動も精力的に行っており、個展や、自作のアートワークにおいて定期的に作品を発表している。
<http://www.japanimprov.com/syamamoto/syamamotoj/>



Photo by Masahiro Ikeda
横尾忠則氏のアートと共に @豊島横尾館

Terry Riley (テリー・ライリー)

作曲家・音楽家。1935年6月24日。カリフォルニア生まれの88歳。
昔も今も、そして未来も、常に新しく、独創性に溢れる音楽を作り続ける音楽界の巨人。
初期の名盤『in C』(1964年)はミニマル・ミュージックの金字塔として輝き続け、『A Rainbow in Curved Air』(1969年)はサイケデリックを代表する不朽の名盤となり、その後登場するアンビエント・ミュージックにも大きな影響を与えている。また、レイヴ・パーティーの原型となった「All-Night Concert」の開催、インド音楽から影響を受けた彼の作品はサンプリング/ループの原型となってクラブ・カルチャーにまで影響を及ぼすなど、1960年代から行なってきた革新的な音楽活動は、ジャンルを超え、今なお世界の音楽シーンの礎であり、未来を照らす光となっている。
横尾忠則、久石譲、ジム・ジャームッシュ等、大ファンを公言している表現者は数多い。
2020年より山梨県在住。鎌倉で月一度、ラーガ教室「Kirana East」も行っている。
<https://linktr.ee/terryriley.jp>



朝吹真理子 photo by Chikashi Suzuki

朝吹真理子 (あさぶき まりこ)

小説家。2009年「流跡」でデビュー。2010年、同作で第20回Bunkamuraドゥマゴ文学賞を最年少受賞。2011年「きことわ」で第144回芥川賞を受賞。2022年「Reborn-Art Festival 2021-22」で画家弓指寛治と展示作品「スウィミング・タウン」を制作。

メディアお問合せ窓口

HOW INC.

MAIL : pressrelease@how-pr.co.jp TEL : 03-5414-6405 FAX : 03-5414-6406

お客様お問合せ先

AMBIENT KYOTO

MAIL: info@ambientkyoto.com